【第 22 回アジアジュニア新体操選手権大会　4 日目】

大会最終日は、個人種目別決勝の後半種目（クラブ・リボン）、および団体種目別決勝のリボン 5 が行われた。

【個人：大塚月愛】
《クラブ》 8 位　得点：20.300（DB 4.80/DA 2.40/A 6.90/E 6.30）
予選では少し荒くなってしまった部分がいくつかあったため、改善して臨めるよう準備を行った。
スタートのパンシェターンは予選よりも精度が良く、3 回転回り切ることができた。
しかし、ひとつ目の R で非対称の 1 本目のクラブが乱れ、判断が遅れてしまったことで 2 本とも落下となり、大きなミスとなってしまった。
その後はすぐに切り替え、予選よりもエネルギーのある動きを見せただけに、スタートのミスが悔やまれる。パンシェバランスや連続ジャンプのフォームは他の人にはない伸びやかさがあり、彼女の良さをアピールすることができた演技となった。
だが、今後世界と戦っていくためには、DB の持ち点を上げ、それを試合の中で決め切る力が不可欠であるため、今回の経験を力に変え、さらなる成長に期待したい。

【個人：五十嵐杏】
《リボン》 6 位　得点：22.450（DB 4.90/DA 2.90/A 7.25/E 7.40）
予選では少し小さくまとめる演技となってしまったリボンであったが、本日は身体の中のエネルギーを全て出し切ることのできた 1 本であった。
スタートのパンシェバランスで少しバランスを崩してしまったが、3 つの R すべて構成通りに行い、予選からＤＢを 0.6 上げることができ、非常にクリアな演技であった。
予選から 4 日間を通し、4 演技大きなミスなくやり切ったことは 1 つの成果であり、彼女の粘り強さをアピールすることのできた試合となった。
現在、ノーミスの演技をしてもトップ選手との差は大きいため、大塚選手と同様に、DB の持ち点を上げ、世界で戦える選手を目指し、日々の練習に励んでいってほしい。

【団体：イオン】
《リボン 5》 1 位　得点：19.800（DB 2.60/DA 4.50/A 6.20/E 6.50）
出場選手：山下紗良・髙田晴香・安達莉愛・池田美玲矢・池田香心

4 日間で唯一、午前中の時間帯での競技だった為、身体と神経の起こし方に気をつけながら試合に臨んだ。演技としては R の受けでスティックとリボンが絡み対処でのもたつき、

中盤の交換での移動が目立つ場面があったが、全体的には大きなミスなく１つ１つ落ち着いてまとめることが出来た。身体難度や手具操作、投げ受けの正確性は引き続き磨いていかなければならないが、最終日まで諦めずに粘り続け、優勝という結果に繋げることができた。総合、種目別決勝と国内種目のリボンで点数、順位を取っていくことが出来たことは大きな成果だが、今後どの種目でも、試合形態でもしっかりと内容をやりきり、結果につなげていけるよう気を引き締めて努めていきたい。

今大会を通して、アジアのトップ選手と日本選手の差を実感することのできた試合となり、世界で戦っていくために必要な課題が明確となった。ジュニア世代においては、ブリスベンオリンピックに向けて、世界との差を縮めるべく、現在できる構成や試合で勝つための構成に留まるのではなく、シニアを見据えた構成内容で戦っていくことが最重要課題である。また、どんな状況でも戦い抜ける精神力を培っていくことも世界で戦える選手になるために必要な要素であるため、今回の経験を通し、技術力・精神力ともにレベルを上げることができるよう、日々の積み重ねを大切に日頃の練習に励んでいってほしいと願う。